

平成28年度 学校評価表

86 長野県池田工業高等学校 定時制

学校教育目標	・日本国憲法に基づき、真理を学ぶ情熱と自らの力で問題を解決する実践力と創造力に富んだ人づくりを目指す
重点目標 (長中期的目標)	・個性や能力を伸ばし、安全で安心して学べる学校づくりを進める ・地域との連携を図り、地域に根ざした学校づくりを進める ・生徒の自立を促し、一人ひとりの能力の開発と基礎学力の定着を図る
今年度の重点目標	・生徒にとって自己肯定感が持てる居場所のある学校づくりをめざす ・家庭、および関係機関との連携を密にし、きめ細かな教育活動を行う ・生徒の自立を支援しながら、基礎学力の定着を図る ・生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめなどない安全・安心な環境づくりに努める

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価 (A・B・C)	コメント (なるべく具体的に)
教 育 活 動	教 務	①学習活動や行事運営の円滑な推進	・各種行事の年間計画を作成し、円滑な運営を行うことができたか。 ・落ち着いた学習に取り組めるような学習環境を整備し、日課や行事予定を立てることができたか。	A	行事予定の変更もあったが無事対応し、細かい日程変更なども一週間前には生徒に連絡した。予定の急な変更に対応できない生徒もいるので、今後も落ち着いた学習に取り組める配慮をしていく必要がある。
		②安全対策の強化	・危機管理マニュアルを周知・徹底できたか。 ・安全確保につながるよう避難訓練等の内容を工夫したか。	B	安全対策をとることに日々努め、避難訓練を実施した。天候不順時の登下校の安全にも注意を喚起していきたい。
		③教育課程	・定通併修や高卒認定試験等、学校外における学修成果の認定を積極的に行い、生徒の多様な進路希望への対応がなされたか。	A	1名の生徒が定通併修制度を利用して3年間で卒業する。今後もこうした制度を生徒の進路希望に合わせ対応していく。
	生 徒 指 導	①問題行動の未然防止	・全職員が生徒に関する情報収集や必要な情報を共有し、一体となって対応できたか。 ・登校指導や校外指導を行い、問題行動の未然防止・早期発見に努めたか。	A	問題を深刻化させないために最優先すべきことは迅速な初期対応である。そのために必要な情報を職員間で絶えず共有することで早めの対応ができ、結果として問題行動の未然防止につながった。
		②いじめ・不登校への支援	・ケース会議や生徒理解の研修を進め、「いじめ」の早期発見と適切な対応を含めて全職員の共通理解のもと指導がなされたか。 ・不登校生徒への細やかな支援ができたか。	B	不登校傾向の生徒への情報収集はできたが、細かな働きかけができなかった。生徒の家庭環境を含めた状況を考慮し対応していく必要がある。
		③教育相談活動	・生徒、家庭の抱える課題について相談にのり、教育相談、カウンセリング事業が積極的に活用できたか。	A	カウンセリングを希望する生徒と、スクールカウンセラーとのパイプ役が果たせた。今後も外部機関と連携を取りながら個別に支援していく。
	進 路 指 導	①基礎学力の向上	・一人一人の個性や特性に配慮した授業の充実を図り、生徒の良さを伸ばす指導がなされたか。 ・生徒の長所を伸ばしつつ課題を明確にして克服できるような指導がなされたか。	A	基礎的な内容を抑えたプリントを作成するなど授業がわかりやすいように工夫した。生徒アンケートからも真面目に取り組んでいることが窺える。
		②個々に応じた進路指導	・進路選択に際して、生徒の適性や興味と保護者の考え方等について理解を深めることができたか。 ・管内のハローワークと連携を密にし、進路情報の有効利用を進められたか。	B	管内外のハローワークから得られた情報を受けて実際に就職活動に踏み出すまでに、時間がかかりすぎてしまった。興味や適性をいかに絞り込むか課題が残る。
		③キャリア教育	・職場体験・ライフスキルトレーニング等を通して、働くために必要なマナー・コミュニケーション能力の向上のための有効な指導がなされたか。	A	社会に出て働いている卒業生による進路講話は、自分の進路に目を向けるきっかけをつくってくれた。LSTやSSTは、コミュニケーションの訓練の場として有効であった。
生 徒 会	①「自主的活動」の重視	・学校行事等の中で、「自主的活動」の場を設定させることにより、「達成感」や「自己肯定感」を得ることができたか。	B	昨年度の反省を引き継ぎ「自主的活動」の場を設定し、最大限の成果は残せたが、「達成感」や「自己肯定感」の充実には改善の余地がある。	
	②クラブ活動の振興	・クラブ活動を通じて生徒の心身の成長を支援し、人格の形成につなげることができたか。 ・クラブ活動の参加率向上への取り組みが行われたか。	B	女子バドミントン部1名の活動であった。更に卒業により男子生徒のサポートもなくなり、練習の質、量ともに低下をきたし、全国、北信越大会への出場を逃してしまった。	
学 校 環 境 の 整 備	環 境 整 備	①保健教育・保健管理	・健康診断、健康教育をととして生徒一人ひとりが、自分の体と健康に関心を持ち、生涯にわたって心身ともに健康な生活をおくるための取り組みがなされたか。	A	保健指導、SST、LST、薬物乱用防止講話などの授業で、健康意識を高め、自分の事を見つめることができた。
		②保健衛生	・夜間の学校生活に対する安全衛生の管理点検と、校舎内外の美化・整頓がなされ学習環境が良好に整えられたか。	B	4月には校外清掃、校内は定期的に清掃活動を行い、校舎内外の美化・整頓に努めた。一方で、HR教室の学習環境には課題が残る。
	開 か れ た 学 校 づ く り	①保護者に対する説明責任	・学習活動の状況や学校の指導方針、学校での生徒の様子などについて、保護者に十分な説明責任をはたすことができたか。 ・授業公開等を行ったか。	A	「定時制通信」を定期的に発行し、学校での様子や行事予定を保護者に伝わるように努め、一定の理解を得られた。また、定時制教育振興会、保護者懇談会に合わせ授業公開を行った。
		②地域社会への情報提供	・積極的に定時制の活動をホームページやマスコミ等で地域にPRできたか。 ・様々な機会を通じて地域との連携を図ることができたか。	A	ホームページの更新を定期的に行い、校外への情報発信がしっかりできた。職場体験、地域清掃などを通じて地域との連携を図ることができた。
		③学校、関係機関との情報交換と連携	・各中学校、全日制課程、近隣の定通課程のつ学校、近隣市町村教育委員会との連携や意見交換を積極的に行い課題や問題点の共有がなされたか。	B	様々な機会に関係機関との情報交換を行った。今後も情報を共有し、連携を深めていきたい。
そ の 他	職員の資質向上	・校内外の研修会などに参加し、研修の成果や情報などを教職員間で共有できるよう務めたか。	B	校外研修の内容を職員間で共有し、知識や意識の向上に努め、同僚性を高めた。	